

厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)

総括・分担研究報告書

HIV 感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究

研究代表者	野田 龍也	奈良県立医科大学 講師
研究分担者	町田 宗仁	金沢大学医薬保健研究域医学系(医学部) 国際保健学 教授
研究協力者	天野 景裕	東京医科大学 臨床検査医学分野 血液凝固異常症遺伝子研究 寄附講座 教授
	伊藤 俊広	独立行政法人 国立病院機構 仙台医療センター 感染症内科医長/HIV/AIDS 包括医療センター室長
	今村 知明	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 教授
	遠藤 知之	北海道大学病院・血液内科 講師
	岡 敏明	医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院 小児科 主任部長 / 血友病センター長
	嶋 緑倫	奈良県立医科大学 小児科 教授
	白幡 聡	社会医療法人北九州病院 北九州八幡東病院
	藤井 輝久	広島大学病院 輸血部 准教授
	松下 正	名古屋大学医学部附属病院輸血部 教授

研究要旨

本研究は、HIV 感染症を合併した血友病患者が受けている治療の標準的な姿を明らかにするとともに、血液凝固異常症全国調査事業など、通常の調査・支援の網からこぼれ落ちている可能性のある患者に、レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) による悉皆調査の光を当て、適切な社会・医療介入へつなげることを目的としている。NDB は、毎年1億人を超える受診者数の保険診療情報をほぼすべて格納した悉皆データベースである。本研究は、特定の疾患を対象に NDB 分析の新技术を適用する初の研究である。

本研究の特色は、全国各地の HIV 感染症及び血友病の臨床専門家が参画していることにある。このことにより、単なるデータ分析に留まらず、血友病等の医療提供体制の地域差や年齢、併存疾患の分布、適正処方や検査の実態等の具体的な議論が可能であり、HIV 感染症を合併した血友病患者への医療体制に係る現在の課題を抽出することができる。また、レセプトに記載されている情報に基づく血友病患者像の定義を検討することも可能である。

2017 年度は、2 回の班会議を開催し、血友病及び HIV/AIDS における医療提供体制の地域差や年齢階級分布、医療機関種別による分布の差、併存疾患の分布、適正処方の実態等について論点を抽出、整理した。NDB 分析を行うためには、研究仮説を NDB 的な問いかけへ変換する作業が最大のポイントとなるが、臨床の専門家と NDB の専門家の協働により、血友病患者定義を行うための A4 で 50 ページほどのマニュアル初版が完成した。また、NDB 分析を単なる分析に終わらせず、薬害エイズの被害者の HIV 診療にも活かすため、厚労科研「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」との連携を積極的に進め、具体的な方策について議論を行った。これらに

より、初年度は、医療提供体制等の課題整理と NDB の具体的分析方法の決定という目標を達成し、NDB による実証の準備が完了した。2 年目は、初年度の議論を実際の分析で実証し、「HIV 感染症を合併した血友病患者が受けている治療の標準的な姿を明らかにし、通常の調査・支援の網からこぼれ落ちている患者に、NDB による悉皆調査の光を当てる」との当研究班の目的を実現する。

本研究における研究代表者、分担者および研究協力者は以下の通りである。

代表 野田 龍也 奈良県立医科大学 講師  
 分担 町田 宗仁 金沢大学医薬保健研究域  
 医学系 (医学部) 国際保健学教授  
 協力 天野 景裕 東京医科大学 臨床検査医学分野 血液凝固異常症遺伝子研究 寄附講座 教授  
 伊藤 俊広 独立行政法人 国立病院機構  
 仙台医療センター感染症内科医長  
 /HIV/AIDS 包括医療センター室長  
 今村 知明 奈良県立医科大学  
 公衆衛生学講座 教授  
 遠藤 知之 北海道大学病院・血液内科 講師  
 岡 敏明 医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院  
 小児科主任部長血友病センター長  
 嶋 緑倫 奈良県立医科大学 小児科 教授  
 白幡 聡 社会医療法人北九州病院  
 北九州八幡東病院  
 藤井 輝久 広島大学病院 輸血部 准教授  
 松下 正 名古屋大学医学部附属病院輸血部  
 教授

## A. 研究目的

日本は医療保険において国民皆保険を達成しており、保険診療における受診者数は、毎年 1 億人を超える。この保険診療情報をほぼすべて格納した悉皆データが「レセプト情報・特定健診等情報データベース」(NDB) である。NDB は日本の医療の全体像を網羅した世界最大の医療データベースであり、2011 年に研究利用目的等での利用が解禁された。本研究

は、NDB を用いて、HIV 感染症を合併した血友病患者 (主には薬害エイズの被害者) の医療ニーズ等を明らかにするものである。NDB の分析は技術的に極端に難しく、今までほとんど手付かずであったが近年、技術的なブレークスルーがあり、分析が現実のものとなった。本研究は、特定の疾患を対象に NDB 分析の新技术を適用する初の研究でもある。

さて、HIV 感染症を合併した血友病患者は、発症の経緯や疾病の特性から、人生の相当期間を HIV 診療及び血友病診療とともに過ごしている。近年の抗 HIV 療法 (ART) の普及により、HIV 感染症は慢性疾患化しつつあり、薬害エイズの被害に遭われた患者さんのニーズとして、血友病診療に関する事柄が増えている。そのため、「薬害エイズの患者」と「血友病患者全体」の医療ニーズは近接化しており、中長期的な対応が臨床、行政上の大きな課題となっている。

本研究は、歴史的な経緯と先人の尽力を経て積み重ねられた現在の医療体制を踏まえつつ、HIV 感染症を合併した血友病患者が受けている治療の標準的な姿を明らかにするとともに、血液凝固異常症全国調査事業など、通常の調査・支援の網からこぼれ落ちている患者に、NDB による悉皆調査の光を当て、適切な社会・医療介入へつなげることを目的としている。本研究事業は、薬害エイズの患者さんの療養の向上を目指しているが、研究を通じて、血友病の診療体制全体の向上にも寄与できると考える。薬害エイズ患者さんの社会的・医療的な支援体制の整備や血友病診療体制の充実化に係る提言は他の研究班や組織の管轄であるが、当研究班はそれらの活動を側面から支援することも寄与できると考える。

本研究班は、「標準治療」を受けられない患者さんの把握を目的としており、対象傷病が 2 つあるため、

傷病×治療状況により、下記の9種類の患者に分けることができる。

		HIV/AIDS患者		
		標準治療	非標準治療	未受診・受診中断
血友病患者	標準治療	1	2	3
	非標準治療	4	5	6
	未受診・受診中断	7	8	9

＜図表1 血友病およびHIV/AIDS患者さんの治療状況による分類＞

図表1において1～9が患者さんの治療状況を示す。NDBにおいて未受診・受診中断の傷病については、その傷病の患者さんは把握できない。そのため、治療状況9の患者さんについてはNDBに一切登場しない。

薬害エイズの患者さんは両傷病の罹患者であり、その目指すところは治療状況1の状態である。特に重要な把握対象は治療状況5の患者さんである。治療状況3, 6, 7, 8の患者さんについては、未受診・受診中断中の傷病についてNDBでは把握しづらい。分析対象期間を3年間に延伸する際に、「途中まで受診していた患者」等を対象として分析することは可能である。

標準治療の普及を目指す立場としての理想的な対応の例としては、治療状況2, 3, 4, 7の患者さん及びその主治医を対象とした情報提供がある。つまり、一方の傷病で標準治療を受けているが、他方の傷病に対してはそうではない患者さん（治療状況2, 3, 4, 7の患者さん）に対し、他方の傷病に関する標準治療の情報を提供することが考えられる。このような情報提供に際しては、臨床の専門家である各委員がその内容について十分吟味・議論をする必要がある。本研究班の議論は、上記の治療状況1～9の患者さんをバランス良く見据えつつ進めることを念頭に置いている。

医療提供体制には地域差や地域事情が関与するため、単にデータを分析するだけに留まってはならない。本研究の特色として、全国各地のHIV感染症及び血友病の臨床専門家が参画し、具体的な議論を行っていることが挙げられる。

## B. 研究方法

### B.1 実施スケジュール

本研究の期間は3年間を予定している。本研究は、HIV感染症及び血友病に関する学会や全国各地域で活動する臨床専門家から構成される医療体制検討班と、NDBの専門家から構成されるNDB分析班からなり、この2班が常に密接に連携して研究を遂行する。具体的には、「医療体制検討班による議論を受け、NDB分析班がNDB等の悉皆的なビッグデータを集計・分析し、その結果を元に、医療体制検討班が医療の均てん化等の議論と追加分析のリクエストを行う。」というPDCAサイクルに基づいて遂行する。

1年目（今年度）は上記2班のメンバーが参集し、HIV感染症を合併した血友病患者さんへの医療体制に係る現在の課題を抽出した。医療体制検討班は、レセプトに記載されている投薬、検査項目の組み合わせを行うことにより定義される血友病患者さん像を検討した。NDB分析班は、2017年8月を目途に厚生労働省へNDBの利用申請を行った。なお、NDBデータの被提供は平成30年度初頭に完了する予定である為、そのデータベース化を行う予定である。

2年目は、データベース化が完了したNDB（及び必要に応じて他の既存統計）を用い、HIV感染症を合併した血友病患者さん、HIV単独感染及び血友病単独罹患の患者さんの年齢分布・地域分布や、治療・検査・併存する疾患、投与薬剤の変遷等につき、全国規模及び地域単位で集計する。可能であれば、その他の一般傷病の患者さんを対照群とした分析を行う。

3年目は、最終的な分析を行い、2年目までの成果をもとに、HIV感染症を合併した血友病患者さんへの医療体制についての提言をまとめる。1～3年目のいずれにおいても、行政機関や関係各所への積極的なヒアリングを行う。

### B.2 病名血液製剤のマトリックスの構築によるNDB的血友病の定義付け

NDBは、日本の保険診療の悉皆データであり、ここ数年で臨床研究利用が可能となってきた。NDBでは、

公費負担以外の医療費が発生する医療行為を把握する力に優れている。しかし、検査結果や死亡といったアウトカム指標は記録されていない。また、QOLなどの社会経済状態に関する指標も把握する力が弱い。かほとんどない。NDBでは

①「疾患特異的な治療法（医療行為や処方）」がある場合

①-2「疾患特異的な検査」がある場合

②「高頻度に受診する疾患」の場合

について患者数の集計が可能である。

特に①の場合は精度の高い集計結果が出る（例：HIV感染症）。NDBには検査結果が入っていないため①-2の場合は集計結果がやや不正確となる（が①-2を採用せざるを得ない局面も多いと思われる）。

上記②の場合も、集計条件を臨床的に工夫することで、一定の精度の結果が得られること（例：糖尿病）、上記2条件（①、②）が合わさると集計の精度が非常に高い（例：人工透析、血友病）ことなども分かってきた。

一方、①「疾患特異的な治療法」がない場合や、②「高頻度に受診する疾患」ではない場合は集計の精度が落ちる。「その病名をつけるインセンティブが低い」「そもそも診断が行われない」場合はさらに困難となる。そのような場合は、「その傷病の患者の多くが受けている非特異的医療行為・処方、検査、受診頻度」等の組み合わせで絞っていく方法について検討する。

### B.3 上記定義付け作業をもとにしたNDB病名確定マニュアルの構築

上記B.2の検討に基づき、レセプトデータにおける血友病患者の定義を作成するための病名確定マニュアルを作成する。

### B.4 血友病集計に関する検討

当研究班でNDBを用いてどのような集計を行うべきか、血友病等の医療提供体制の地域差や年齢階級分布、医療機関種別による分布の差、併存疾患の分布、適正処方や検査の実態等についての議論を行った。

なお、NDBでは患者住所地は非公表であり、受診先の病院住所地（受診地）が集計される。また、集計期間の途中で受診地や年齢が変わった場合、集計期間の最初に出現した受診地で集計するか、毎年1月受診地とするかなど議論の余地がある。これらのNDBの特徴を踏まえ、血友病患者の定義を決め、患者の集計方法や、各種患者統計による数値との比較をどのようにして行うべきかについて検討する。

## B.5 医療体制に関する論点整理

薬害エイズ患者さんへの社会的・医療的な支援体制の整備は別の研究班の管轄であるが、本研究班の活動目的として、NDBという悉皆調査の網を利用することで、それら既存の研究班（「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班」代表・横幕能行）を側面から支援することも含まれる。研究の遂行にあたっては、実際に他の研究班との情報共有を積極的に図るものとする。本件に関し、班会議を実施し、薬害エイズ患者さんへ医療体制に関する課題抽出・論点整理を行う。

## C. 研究結果

### C.1 研究班における専門家議論の達成度

2017年7月と12月に班会議を開催した。2回の班会議には、全国に散らばる10名の構成員のほぼ全員に多忙な診療の合間を縫って出席し、議論を行った。

また、研究代表者の野田と研究分担者の町田は、班会議に出席できなかった構成員のもとを直接訪問し（北海道大学病院 遠藤委員、札幌徳洲会病院 岡委員、及び名古屋大学医学部松下委員）、個別に議論を行った。

また、血友病を有する薬害エイズ患者さんのHIV医療体制の向上を担当する厚労科研「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班」（研究代表者：国立病院機構名古屋医療センター 横幕能行部長）との連携を積極的に進めた。本研究班の野田と町田は、2017年7月、10月、2018年1月の3回、名古屋医療センターを訪問し、本研究班のNDB分析を単なる分析に終わらせず、

薬害エイズの被害者の HIV 診療にも活かすための具体的な方策について議論を行った。

## C.2 病名血液製剤のマトリックスの構築による NDB 的血液病の定義付け

NDB (レセプト) には「〇年〇月に血液製剤 A を B 単位処方した」「〇年△月に T 細胞サブセット検査を行った」といったプロセスは比較的正確・高速に把握できるが、予後や検査結果などのアウトカムはほとんど分からない、という特徴がある。血友病や HIV 感染症等には臨床上の診断基準があるが、検査結果データがないため NDB では直接にはこの基準を利用できない。

NDB でこれらの患者さんを特定し、分析するためには、「この医療行為 (検査、手術、処方等) を実施しているのだからこの傷病なのだろう」といった医療行為の蓋然性で定義づける必要がある (例: 抗 HIV 薬の処方を受けていればおそらく HIV/AIDS 患者である)。いわば、NDB 的血液病、NDB 的 HIV 感染症を定義することが分析の一丁目一番地である。

NDB を用いた臨床分析では、研究仮説を NDB 的な問いかけへ変換する作業 (主に患者定義作業) が最大のポイントとなるため、医療体制検討班と NDB 分析班が、上記班会議や直接訪問で協働した。

まず、レセプトで特定可能な血液病に関連する傷病名について、NDB 分析班が臨床の専門家の協力を得てリストアップした (図表 2)。

### <図表 2 血液病関連傷病名>

レセプトにおいては、傷病名が「請求コード」で入力されているため、血液病患者を NDB で特定するためには、患者のレセプトに付与されている「請求コード」を特定する必要がある。本研究においては、まず、NDB 分析チームが「血液病に関連する」と思われる傷病名に該当する「請求コード」を抜き出した。請求コード自体は分類により体系化されていないため、請求コードを個別に探索しリストアップする必要があるが、これは非常に困難である。NDB 分析班は、血液病に関連しそうな疾患群について、ICD10 コ

ードをベースとして、ICD10 大分類→中分類→小分類へと見ながら該当する ICD10 コード絞込みし、特定された ICD10 コードに該当する請求コード (+傷病名名称) をレセプトの傷病名マスタより抽出した。

次に、医療体制検討班を交えて、下記の観点での議論を行った。

- リストアップされた請求コード (に付与されている「傷病名」) が血液病の患者さんを特定するに当たって妥当であるか
- 現場の医療とレセプト請求の実態を鑑みて、他に付与されうる傷病名はないか。
- 傷病名から患者さんを特定することで、どのような問題が起こりえるか。

医療体制検討班を交えた議論の結果、下記の見解が得られた。

- レセプトの傷病名は必ずしも正確に入力されていない可能性がある。例えば、血液病 B やフォンヴィルブランド病などについては、査定を避けるための「疑い病名」が付与されている可能性がある。一方で、「第 VIII 因子インヒビター陽性先天性血液病」のように、正確につけられていると思われる病名もある。
- 傷病ごとに治療に用いられる薬剤は、ある程度限られている。

そこで、医療体制検討班構成員に「疾患ごとの、治療に用いられる可能性のある薬剤」について調査した。調査にあたって、本研究の対象期間である 2013 年～2015 年にレセプト請求の対象となっていた血液病治療薬をまず、NDB 専門家が臨床の専門家の協力を得てリストアップし (66 種類)、「それぞれの医薬品がどの疾患の治療に用いられるか」という視点に基づき、図表 3 の調査票を作成した。

### <図表 3>調査票

図表 3 調査票を医療体制検討班構成員に配布し、「それぞれの医薬品がどの疾患の治療に用いられ

うるか」について調査を行った。具体的な調査の内容を以下に示す。

1. 図表3の薬剤(58種類)と疾患(31種類)の組み合わせマトリックスをNDB分析班が作成し、医療体制検討班構成員に送付した。
2. 薬剤と傷病名の組み合わせごとに、処方が行われる蓋然性について、3段階(その薬剤は、本来この傷病名だけに使われる場合に◎/複数の傷病が対象となる場合に○/本来この傷病名には使用されない場合に×)にわけて医療体制検討班構成員が回答した。合わせて、血友病以外の疾病に対しても使用される可能性を検討した。NDB的血友病患者さんの定義づけにおいて、血友病のレセプト病名がつけられた上で別の疾患に適応外処方が行われるケースを除く必要があるためである。  
また、血友病のとの関連で着目すべき、NDB分析班がリストアップした以外の薬剤有無についても併せて調査した。
3. 医療体制検討班構成員の回答をNDB分析班が統合し、下記のいずれに当たるか分類した。
  - 「その薬剤はこの傷病だけに使われる」(一対一)で全員一致
  - 「複数の傷病に使用される薬剤」(一対多)で全員一致
  - 「この薬剤はこの傷病には使用しない」で全員一致
  - 全員一致での結果が得られなかった
4. 統合された結果の中で、医療体制検討班構成員の意見の相違があるものについて、精査した。
  - 例えば、「血友病Aの確定診断が得られている患者にはこの薬剤を使用することがある場合」や、「確定診断前ではあるが何らかの血友病であることは間違いなく、疑い病名として血友病Aをつけている場合」が◎または○に該当するとして、「血友病の患者であればこの組み合わせ(病名と薬剤)はありえる」かを確認した。

- 一方、「疑い病名であってもこの薬剤を処方する際にこの病名はつけないだろう」という場合該当するかを確認した。
  - 「複数の傷病に使用される薬剤である」(一対多)という意見と、「この薬剤はこの傷病名だけに使われる」(一対一)との意見に分かれた薬剤と傷病名の組み合わせについて、再度の見直しを行った。
  - 複数の傷病に使用される薬剤である」(一対多)という意見と、「この薬剤はこの傷病には使われない」(不使用)との意見に分かれた薬剤と傷病名の組み合わせについて、血友病患者に用いられる傷病と薬剤の組み合わせなのか、この組み合わせは臨床的にほとんど用いられないのかを確認した。
  - 「この薬剤はこの傷病名だけに使われる」(一対一)という意見と、「この薬剤はこの傷病名には使われない」(不使用)との意見に分かれた薬剤と傷病名の組み合わせについて、血友病患者に用いられる傷病と薬剤の組み合わせなのか、この組み合わせが臨床的にほとんど用いられないのかを確認した。
  - 血友病等に用いる新しい薬剤を追加し(5種類)、薬剤と傷病名の組み合わせごとに、処方が行われる蓋然性について確認した。
5. 医療体制検討班構成員の回答を再度統合し、図表4に示す「必ず治療に用いられている薬剤」「治療に用いられる可能性のある薬剤」について、個別疾患ごと用いられうる薬剤マップを作成した。

図表4において、緑が「必ず治療に用いられている」傷病名と薬剤の組み合わせを示す。白が、「治療に用いられる可能性のある」傷病名と薬剤の組み合わせを表す。

<図表4>薬剤と傷病名の組み合わせ調査

図表4を用いたNDBにおける血友病患者さんの特定方法としては、以下の2種類の定義が考えられる。

定義A：関連病名全体のうち1つでも病名が付与され、かつ、血液製剤全体のうち1剤でも処方されている場合（図表3全体を血友病患者と定義する）

定義B：関連病名それぞれについて対応する血液製剤を特定し、その組み合わせに合致する場合のみ（図表4のうち、緑に塗られた部分のみを血友病患者と定義する）

なお、上記の定義AとBのいずれが、より実態に即しているかを、次年度以降に実際のNDBを用いて解析ができた段階で検討する。

また、下記については、集計値を見ながら検討が必要であるため、今後の課題である。

- アンチトロンビンIII欠乏症でアンチトロンビン製剤（図表3のNo.72とNo.74）を使っている場合は、血友病に含めない方がいいのではないか。
- 病名が2つ以上ついている場合の取り扱いをどうするか。例えば、血友病とフォンウィルブランド病が残っている場合はどちらを優先するか、両方でカウントするか。

### C.3 NDB 病名確定マニュアルの構築

本研究の成果として、血友病病名のもと、特定の血液製剤が継続的に処方されている受診者を血友病患者さんと定義することで正確な患者さんを把握することを目指す、A4で50ページほどのマニュアル初版が完成した。

### C.4 血友病集計に関する議論

血友病及びHIV/AIDSにおける医療提供体制の把握のために、どのような集計が有用となるかについて議論を行った。まずは、地域差や年齢階級分布、医療機関種別による分布の差、併存疾患の分布、適正処方の実態等について論点を抽出し、整理した。

論点整理に当たって、必要な集計として事務局から以下の案を提出した。

- (ア) 性別患者数
- (イ) 年齢別患者数
- (ウ) 都道府県別患者数
- (エ) 診療年月別患者数
- (オ) 性別・傷病名別患者数
- (カ) 年齢別・傷病名別患者数
- (キ) 都道府県別・傷病名別患者数
- (ク) 診療年月別・傷病名別患者数

具体的には、(ア)～(ク)の集計を患者定義（定義Aに基づく患者と、定義Bに基づく患者）ごとにNDBデータから算出する。それぞれの定義による患者数を比較することにより、各研究協力者の把握する地域の患者数の実感により合うのはどちらの定義に基づくものか等を、今後検討することができる。集計の対象集団としては、

- ① 定義Aに基づく血友病患者
  - ② 定義Bに基づく血友病患者
  - ③ HIV患者
- となる。また、
- ④ B型肝炎
  - ⑤ がん

を併発している患者についても、医療体制の把握のために集計を行うことの有用性があると判断した。

従って、必要な集計は、(ア)～(ク)×①～⑤となる。

この集計イメージを元に、NDBで実際に集計を行い、結果を解釈する際の注意点等について検討した結果、注意点は以下である。

- NDBのデータにおける「地域」別の集計については、患者住所ではなく「受診した医療機関の地域」での集計になる。また、最初に受診した医療機関か、最近受診した医療機関かで集計結果も異なってくる。周辺の県からの受診、または周辺の県への受診により、患者調査とは数値が異なる可能性がある。地域別の集計において、いつ時点での地域を用いる

かについて、検討が必要である。

- 院外処方の場合には、調剤薬局のある地域を採用するか、受診医療機関の地域とするかについても議論の余地がある。
- 利用申請している期間に治療が行われていない場合、例えば非常に軽症で、該当期間に1回も診療を受けなかったという患者は除外されてしまう。
- そもそもNDBにデータがない患者（生活保護と完全公費、治験、交通事故の場合等）もいる。

### C.5 医療体制に関する論点整理

#### 【HIV患者さんについて】

HIV患者さんについては、図表5に示すHIVの薬を1剤以上処方されている場合で定義し、病名は考慮しない、という方向で検討が進められた。

＜図表5＞HIV薬剤

HIV患者さんの治療実態の把握のなかで、各ブロックの連絡協議会の場で変更の検討を要するという意見も出た特定のHIV治療薬剤の処方実態についての集計も重要である。依然としてこれらの薬剤が処方されているのであれば、その処方実態に関する情報を各都道府県に提供することにより、処方薬剤変更へのアプローチになる可能性があるためである。実際の治療においては、ウイルス量がうまくコントロールできていると処方し続けてしまうこともあるため、年次での処方の変化を追う必要性について検討した。

また、医師による新薬の採用動向について、特に、ゼリットの寄与歴のある患者さんについてミトコンドリア障害の発生リスクが高いという学会発表等があるので、NDBで確認できれば興味深い。

#### 【併発疾患について】

HIV患者さんおよび血友病患者さんの併発疾患として重要となるB型肝炎の特定については、図表6に

示す傷病名の有無に基づき定義する方向性について検討を行った。

病名	請求コード	ICDコード	ICDコード
B型肝炎変	8843999	B181	
B型代償性肝硬変	8848181	B181	
B型非代償性肝硬変	8848182	B181	
B型慢性肝炎	0703003	B181	
急性B型肝炎・肝性昏睡合併あり	8842151	B162	
B型肝炎	0703002	B169	
B型肝炎ウイルス感染	8830062	B169	
B型肝炎ウイルス性関節炎	8848430	B169	M015
B型急性肝炎	0703021	B169	
B型劇症肝炎	8830063	B169	
HBウイルス腎症	8830087	B169	N080
B型肝炎合併妊娠	8848013	O984	B169

＜図表6＞B型肝炎傷病名

肝炎以外の疾患として、がんも検討された。今後、がんのSMRを算出する場合は、後天性血友病の基礎疾患ががんであるため、後天性血友病を除く必要がある。

### D. 考察

提供側の事情によりNDBデータは研究班に到着しておらず、2017年1月時点で分析は始まっていない（計画の範疇ではある）。しかし、「全国各地のHIV感染症及び血友病の臨床専門家とNDBの専門家が参画し、単なるデータ分析に留まることなく、具体的な議論を行う」という本研究班の目的は、初年度については十分に達成されたと考える。

健康局エイズ対策推進室の協力により、厚生労働省保険局保険システム高度化推進室と折衝を行い、2017年12月にNDBの利用申請を行った。保険システム高度化推進室の事情により、申請が予定より後倒しとなったため、本稿執筆時点で研究班にNDBデータはまだ提供されていない。しかし、当初計画の範疇であり、影響は軽微である。

2年目は、初年度の議論を実際の分析で実証し、「HIV感染症を合併した血友病患者が受けている治療の標準的な姿を明らかにし、通常の調査・支援の網からこぼれ落ちている患者に、NDBによる悉皆調査の光を当てる」との当研究班の目的を実現する。

NDBデータ被提供後の集計について、まずは、既存調査との患者数の比較が重要である。

- 薬害エイズ患者の全国分布とNDB的血友病患者



の全国分布の比較

- 血友病患者の全国分布と、NDB 的血友病患者の全国分布の比較
- 血液凝固異常症全国調査やHIV の全国調査における患者数との比較

なお、患者調査結果との比較においては、以下について注意が必要である。

- 患者調査の回収率が 60%強であり、回答が得られなかった場合は過去調査の結果を残しているため、患者のダブルカウントがありえる
- HIV の全国調査においては、血友病患者の二次感染でHIV になっている患者の配偶者も含まれている。

## E. 結論

初年度は、医療提供体制等の課題整理と NDB の具体的分析方法の決定という目標を達成し、NDB による実証の準備が完了した。

## F. 健康危険情報

無 (非該当)

## G. 研究発表

1. 論文発表 (発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

無

2. 学会発表

無

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

無

2. 実用新案登録

無

3. その他

無

<図表 2 血友病関連傷病名>

傷病名	請求コード
血友病	2860001
血友病A	2860002
血友病B	2861002
プロトロンビン欠乏症	2863004
パラ血友病	2863010
フォンウィルブランド病	2864002
フィブリノゲン欠乏症	2866028
後天性凝固因子欠乏症	2867001
凝固因子欠乏症	2869004
先天性血液凝固因子異常	2869021
血友病関節炎	7132002
アンチトロンビンIII欠乏症	8830404
血友病性出血	8833200
後天性低プロトロンビン血症	8833586
先天性第X因子欠乏症	8836288
先天性第XII因子欠乏症	8836289
先天性第XIII因子欠乏症	8836290
先天性無フィブリノゲン血症	8836376
低トロンビン血症	8837880
フィブリノゲン異常症	8839602
フィブリノゲン減少症	8839603
プロテインC欠乏症	8841336
プロテインS欠乏症	8841337
後天性血友病A	8845658
後天性血友病B	8845659
第VIII因子インヒビター陽性先天性血友病	8845702
第IX因子インヒビター陽性先天性血友病	8845703
新生児低プロトロンビン血症	8845955
アンチトロンビン欠乏症	8847158
後天性第XIII因子欠乏症	8847752
先天性第XI因子欠乏症	8847783
先天性第VII因子欠乏症	8847221

## <図表3>調査票

### この調査票の背景

- ・本研究班では、今年度、診療報酬全国データ(NDB)を用いて血友病患者の全国分布を把握する作業をおこなっています。
- ・そのためには、NDB(レセプト)における「血友病」を定義づける必要があります。
- ・しかし、NDBにある傷病名は疑い病名やレセプト病名が多く含まれており、患者定義のためには使用薬剤等を組み合わせて確実性を上げる必要があります。
- ・先日実施した集計(班会議に提示)では、「ある傷病名が付与されている」+「血液製剤を1種類でも使用している」という2条件で集計を行いました。
- ・班会議の席上、集計条件を「ある傷病名が付与されている」+「その傷病名に使用される血液製剤が使用されている」としたほうがより正確であるとの意見をいただきました。
- ・傷病名と薬剤名の対応を先生方にご教示いただくこととなり、このExcelはその調査票となります。
- ・お手数でございますが、下記のご案内に沿って、ご記入のほど、よろしく願い申し上げます。職場の先生方にもご意見をお伺いいただければ幸いです。

### お願いしたい作業

- ・調査票シートにお名前と所属機関をご記入ください。
- ・傷病名と血液製剤のクロスする部分に以下の印をご記入ください。
- ・「その薬剤は本来はこの傷病名だけに使われる」という薬剤に◎をお願いします(色は黒でかまいません)。  
(レセプト病名は考慮せず、臨床的に「本来、この傷病名に使われるべきかどうか」でご判断ください。)
- ・「この薬剤はこの傷病名には使用されない」という薬剤に×をお願いします。
- ・複数の傷病に使用される薬剤は、使用される傷病名すべてに○をお願いします。  
(複数の傷病に使われるが、メインはこの病気、というものがありましたら、**傷病名欄に「主」と書くか、備考欄にてご教示ください。**)
- ・○×をつけるのに迷った項目は後で再検討しますので、**セルに黄色**をつけてください。備考欄やコメントでの記載もお願いします。
- ・「他の血液製剤」や「血液製剤以外で処方状況を見たい薬剤」、「血友病と一緒に分析してみたい病名」を適宜追加ください。  
(現在、血液製剤ではイデルピオンやアディノベイト、コバルトトリイ、他の薬剤ではFFPやデスマプレシン、他の傷病としてはC型肝炎が挙がっています。)
- ・血友病以外の傷病に使用される薬剤があれば、備考欄にその傷病名をご記入ください。  
(レセプト病名で「血友病A」とつけられて実際には「\* \* 病」に使用される場合などです。)  
(NDBの分析上、血友病のレセプト病名がつけられた上で別の疾患に適応外処方が行われるケースは重要な問題ですので、ぜひご教示ください。)
- ・NDBの分析は幅広く集計する負担は大きくありませんが、追加集計には時間を要します。できるだけ幅広く薬剤や病名をお選びください。
- ・調査票の書き方等でご質問や改善提案がございましたら、調査期間中でもお寄せください。よろしく願い申し上げます。

ご送付先 [noda@narmed-u.ac.jp](mailto:noda@narmed-u.ac.jp), [e-sakamoto@narmed-u.ac.jp](mailto:e-sakamoto@narmed-u.ac.jp) 提出期限: 8月31日

他に分析したほうが良い病名があれば、右に追加ください。血友病以外でも、DICや肝移植後など、血液製剤の一時的な使用が想定される傷病でも構いません。

お名前( ) 所属機関( )

薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2013年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	血液製剤の備考 (例:新薬、全国的な普及を望みたい、必ず薬剤Aと同時に使用する等)	血友病以外の傷病への使用(適応外処方を含む。)がある場合はその傷病名を記載ください。	血友病	血友病A	血友病B	血友病	プロトロンビン欠乏症	バラ血友病	フォンウィルブラント病	フィブリノゲン欠乏症	後天性凝固因子欠乏症	凝固因子欠乏症	先天性血液凝固因子異常	血友病関節炎	アンチトロンビンIII欠乏症	血友病性出血	後天性低プロトロンビン血症	先天性第X因子欠乏症	先天性第XII因子欠乏症	先天性第XIII因子欠乏症	先天性無フィブリノゲン血症	低プロトロンビン血症	フィブリノゲン異常症	フィブリノゲン減少症	プロテインC欠乏症	プロテインS欠乏症	後天性血友病A	後天性血友病B	第VIII因子インヒビター陽性先天性血友病	第IX因子インヒビター陽性先天性血友病	新生児低プロトロンビン血症	アンチトロンビン欠乏症	後天性第XIII因子欠乏症	先天性第X因子欠乏症	
1	ファイバ静注用500 500単位10mL(溶解液付)																																			
2	ファイバ静注用1000 1,000単位20mL(溶解液付)																																			
3	ノボセプンHI静注用1mg 1mL(溶解液付)																																			
4	ノボセプンHI静注用2mg 2mL(溶解液付)																																			
5	ノボセプンHI静注用5mg 5mL(溶解液付)																																			
6	ノボセプンHI静注用1mg シリンジ 1mL(溶解液付)																																			
7	ノボセプンHI静注用2mg シリンジ 2mL(溶解液付)																																			
8	ノボセプンHI静注用5mg シリンジ 5mL(溶解液付)																																			
9	ノボセプンHI静注用8mg シリンジ 8mL(溶解液付)																																			
10	バイロット配合注 第7a因子1.5mg第X因子15mg溶解液付																																			
11	コージネイトFSバイオセット注250 250国際単位(溶解液付)																																			
12	コージネイトFSバイオセット注500 500国際単位(溶解液付)																																			
13	コージネイトFSバイオセット注1000 1000国際単位溶解液付																																			
14	コージネイトFSバイオセット注2000 2000国際単位溶解液付																																			
15	アドベイト静注用250 250単位(溶解液付)																																			
16	アドベイト静注用500 500単位(溶解液付)																																			
17	アドベイト静注用1000 1,000単位(溶解液付)																																			
18	アドベイト静注用2000 2,000単位(溶解液付)																																			
19	アドベイト静注用1500 1,500単位(溶解液付)																																			
20	コンファクトF注射用250 250単位(溶解液付)																																			
21	コンファクトF注射用500 500単位(溶解液付)																																			
22	コンファクトF注射用1000 1,000単位(溶解液付)																																			
23	ノボエイト静注用250 250国際単位(溶解液付)																																			
24	ノボエイト静注用500 500国際単位(溶解液付)																																			
25	ノボエイト静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)																																			
26	ノボエイト静注用1500 1,500国際単位(溶解液付)																																			
27	ノボエイト静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)																																			
28	ノボエイト静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)																																			



<図表4>薬剤と傷病名の組み合わせ調査 (1/2)

薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2012年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	血友病	血友病A	血友病B	プロロンピン 欠乏症	バラ血友病	フォンウィルブラ ンド病	フィブリノゲン欠 乏症	後天性凝固因 子欠乏症	凝固因子欠乏 症	先天性血液凝 固因子異常	血友病関節炎	アンテロロンピン III欠乏症	血友病性出血	後天性低プロ ロンピン血症	先天性第X因子 欠乏症	先天性第XI因 子欠乏症	先天性第XIII因 子欠乏症
		2890001	2860002	2841002	2863004	2863010	2864002	2866028	2867001	2869004	2869021	7132002	8830404	8833200	8833588	8834288	8836289	8836290
1	ファイバ静注用500 500単位9mL(溶解液付)																	
2	ファイバ静注用1000 1,000単位19mL(溶解液付)																	
3	ノボセプンHI静注用1mg 0mL(溶解液付)																	
4	ノボセプンHI静注用2mg 1mL(溶解液付)																	
5	ノボセプンHI静注用5mg 4mL(溶解液付)																	
6	ノボセプンHI静注用1mg シリンジ 0mL(溶解液付)																	
7	ノボセプンHI静注用2mg シリンジ 1mL(溶解液付)																	
8	ノボセプンHI静注用5mg シリンジ 4mL(溶解液付)																	
9	ノボセプンHI静注用8mg シリンジ 7mL(溶解液付)																	
10	バイクロット配合注 第7a因子1.5mg第X因子14mg溶解液付																	
11	コージネイトFSバイオセット注250 249国際単位(溶解液付)																	
12	コージネイトFSバイオセット注500 499国際単位(溶解液付)																	
13	コージネイトFSバイオセット注1000 999国際単位溶解液付																	
14	コージネイトFSバイオセット注2000 1999国際単位溶解液付																	
15	アドベイト静注用250 249単位(溶解液付)																	
16	アドベイト静注用500 499単位(溶解液付)																	
17	アドベイト静注用1000 1,001単位(溶解液付)																	
18	アドベイト静注用2000 2,001単位(溶解液付)																	
19	アドベイト静注用1500 1,499単位(溶解液付)																	
20	コンファクトF注射用250 249単位(溶解液付)																	
21	コンファクトF注射用500 499単位(溶解液付)																	
22	コンファクトF注射用1000 1,001単位(溶解液付)																	
23	ノボエイト静注用250 249国際単位(溶解液付)																	
24	ノボエイト静注用500 499国際単位(溶解液付)																	
25	ノボエイト静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)																	
26	ノボエイト静注用1500 1,499国際単位(溶解液付)																	
27	ノボエイト静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)																	
28	ノボエイト静注用3000 3,001国際単位(溶解液付)																	

薬剤番号	2013年～2018年に使われた薬剤 (2012年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	血友病	血友病A	血友病B	プロトロンビン欠乏症	バラ血友病	フォンウィルブラント病	フィブリノゲン欠乏症	後天性凝固因子欠乏症	凝固因子欠乏症	先天性血液凝固因子異常	血友病関連病	アンチトロンビンIII欠乏症	血友病性出血	後天性症プロトロンビン血症	先天性症X因子欠乏症	先天性症XII因子欠乏症	先天性症XIII因子欠乏症
		2880001	2880002	2881002	2883004	2883010	2884002	2886028	2887001	2888004	2889021	7132002	8830404	8833200	8833508	8836298	8836289	8838290
29	クロスエイトMC静注用250単位 (溶解液付)																	
30	クロスエイトMC静注用500単位 (溶解液付)																	
31	クロスエイトMC静注用1000単位 1, 001単位(溶解液付)																	
32	クロスエイトMC静注用2000単位 2, 001単位(溶解液付)																	
33	イロクテイト静注用250 249国際単位(溶解液付)																	
34	イロクテイト静注用500 499国際単位(溶解液付)																	
35	イロクテイト静注用750 749国際単位(溶解液付)																	
36	イロクテイト静注用1000 1, 001国際単位(溶解液付)																	
37	イロクテイト静注用1500 1, 499国際単位(溶解液付)																	
38	イロクテイト静注用2000 2, 001国際単位(溶解液付)																	
39	イロクテイト静注用3000 3, 001国際単位(溶解液付)																	
40	クリスマシンM静注用399単位 (溶解液付)																	
41	クリスマシンM静注用1000単位 1, 001単位(溶解液付)																	
42	ノバクトM静注用400単位 (溶解液付)																	
43	ノバクトM静注用800単位 (溶解液付)																	
44	ノバクトM静注用1600単位 1, 599単位(溶解液付)																	
45	ノバクトM静注用499単位 (溶解液付)																	
46	ノバクトM静注用1000単位 1, 001単位(溶解液付)																	
47	ノバクトM静注用2000単位 2, 001単位(溶解液付)																	
48	ベネフィクス静注用500 499国際単位(溶解液付)																	
49	ベネフィクス静注用1000 1, 001国際単位(溶解液付)																	
50	ベネフィクス静注用2000 2, 001国際単位(溶解液付)																	
51	ベネフィクス静注用3000 3, 001国際単位(溶解液付)																	
52	オルプロリクス静注用500 499国際単位(溶解液付)																	
53	オルプロリクス静注用1000 1, 001国際単位(溶解液付)																	
54	オルプロリクス静注用2000 2, 001国際単位(溶解液付)																	
55	オルプロリクス静注用3000 3, 001国際単位(溶解液付)																	
56	オルプロリクス静注用250 249国際単位(溶解液付)																	
57	PPSB-HT静注用200単位「ニテヤク」(溶解液付)																	
58	PPSB-HT静注用500単位「ニテヤク」(溶解液付)																	

薬剤番号	2012年～2015年に使われた薬剤 (2012年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	血友病	血友病A	血友病B	プロトロンビン 欠乏症	バラ血友病	フォンウィルブラ ンド病	フィブリノゲン欠 乏症	後天性凝固因 子欠乏症	凝固因子欠乏 症	先天性血漿基 因因子異常	血友病関連病	アンチトロンピン III欠乏症	血友病性出血	後天性症プロト ロンビン血症	先天性第X因子 欠乏症	先天性第XII因 子欠乏症	先天性第XIII因 子欠乏症
		2860001	2860002	2861002	2863004	2863010	2864002	2866028	2867001	2869004	2869021	7132002	8030404	8033200	8033504	8034288	8036269	8036290
59	アディノベイト静注用500 499国際単位(溶解液付)																	
	アディノベイト静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)																	
	アディノベイト静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)																	
60	コバルトリー静注用250 249国際単位(溶解液付)																	
	コバルトリー静注用500 499国際単位(溶解液付)																	
	コバルトリー静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)																	
	コバルトリー静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)																	
	コバルトリー静注用3000 3,001国際単位(溶解液付)																	
61	イデルピオン静注用250 249国際単位(溶解液付)																	
	イデルピオン静注用500 499国際単位(溶解液付)																	
	イデルピオン静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)																	
	イデルピオン静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)																	
62	新鮮凍結血漿-LR日赤120 血液199mL相当に由来する血漿																	
	新鮮凍結血漿-LR日赤240 血液399mL相当に由来する血漿																	
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」480 479mL																	
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」 血液200mL相当に由来する血漿																	
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」 血液400mL相当に由来する血漿																	
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」成分採血 449mL																	
	新鮮凍結血漿「日赤」 160mL																	
	新鮮凍結血漿「日赤」 450mL																	
	新鮮凍結血漿「日赤」 80mL																	
63	デスマプレシン注4協和 3μg																	
	デスマプレシン点鼻液0.01%協和 249μg																	
	デスマプレシン点鼻スプレー0.01%「ILS」 499μg																	
	デスマプレシン・スプレー2.5協和 124μg																	
	デスマプレシン・スプレー10協和 499μg																	
64	フィブロガミンP静注用 正常人血漿1mL中含有量239倍溶解液付																	
65	ノボサーチーン静注用2500 2,499国際単位(溶解液付)																	
66	フィブリノゲンHT静注用0g「ベネシス」(溶解液付)																	
67	フィブリノゲンHT静注用0g「JB」(溶解液付)																	
	乾燥人フィブリノゲン 0g(溶解液付)																	



薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2012年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	血友病	血友病A	血友病B	プロトロンビン欠乏症	パラ血友病	フォンウィルブラント病	フィブリノゲン欠乏症	後天性凝固因子欠乏症	凝固因子欠乏症	先天性血液凝固因子異常	血友病関節炎	アンチトロンビンIII欠乏症	血友病性出血	後天性低プロトロンビン血症	先天性第X因子欠乏症	先天性第XII因子欠乏症	先天性第XIII因子欠乏症
		2880001	2860002	2841002	2863004	2883010	2864002	2864028	2867001	2869004	2869021	7132002	8030404	8833200	8833200	8836288	8836289	8836290
68	アコアラン静注用600 599国際単位(溶解液付)																	
	アコアラン静注用1800 1,799国際単位(溶解液付)																	
69	注射用アナクトC2, 499単位 (溶解液付)																	
72	アンスロピンP1500注射用 1,499単位(溶解液付)																	
73	アンスロピンP500注射用 499単位(溶解液付)																	
74	ノイアート静注用1500単位 1,499単位(溶解液付)																	
75	ノイアート静注用499単位 (溶解液付)																	
76	ノボサーティーン静注用2500 2,499国際単位(溶解液付)																	
80	献血ノンスロン1500注射用 1,499単位(溶解液付)																	
81	献血ノンスロン500注射用 499単位(溶解液付)																	
82	トランサミン散49%																	
83	トランサミン錠250mg																	
84	トランサミン錠500mg																	
	トランサミンカプセル249mg																	
	トランサミンシロップ4%																	
	トランサミン注5% 4mL																	
	トランサミン注10% 2.4mL																	
	トランサミン注10% 9mL																	
85	カチーフN散10mg/㊿ 0%																	
	カチーフN錠5mg																	
	カチーフN錠10mg																	
	ケーワンカプセル10mg																	
	ケーワンカプセル20mg																	
	ケーワン錠4mg																	
	ケイツーカプセル4mg																	
	ケイツーシロップ0.1%																	
	ケイツーN静注9mg																	
	ビタミンK1錠4mg「ツルハラ」																	
	ビタミンK1錠5 4mg																	
	ビタミンK1注10mg																	
	ビタミンK1注30mg																	
	ビタミンK1注50mg																	

薬剤と傷病名の組み合わせ調査 (2/2)

薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2012年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	先天性フィブリノゲン血症	低トロンビン血症	フィブリノゲン異常症	フィブリノゲン減少症	プロテインC欠乏症	プロテインS欠乏症	後天性血友病A	後天性血友病B	第VIII因子インヒビター陽性先天性血友病	第IX因子インヒビター陽性先天性血友病	新生児低プロトロンビン血症	アンチトロンビン欠乏症	後天性第XIII因子欠乏症	先天性第XIII因子欠乏症	先天性第XI因子欠乏症	先天性第XII因子欠乏症
		0036376	0037000	0039902	0039603	0041330	0041337	0045050	0045059	0045702	0045703	0045955	0047150	0047752	0047703	0047221	
1	ファイバ静注用500 500単位9mL(溶解液付)																
2	ファイバ静注用1000 1,000単位19mL(溶解液付)																
3	ノボセプンHI静注用1mg 0mL(溶解液付)																
4	ノボセプンHI静注用2mg 1mL(溶解液付)																
5	ノボセプンHI静注用5mg 4mL(溶解液付)																
6	ノボセプンHI静注用1mg シリンジ 0mL(溶解液付)																
7	ノボセプンHI静注用2mg シリンジ 1mL(溶解液付)																
8	ノボセプンHI静注用5mg シリンジ 4mL(溶解液付)																
9	ノボセプンHI静注用8mg シリンジ 7mL(溶解液付)																
10	バイクロット配合注 第7a因子1.5mg第X因子14mg溶解液付																
11	コージネイトFS/バイオセット注250 249国際単位(溶解液付)																
12	コージネイトFS/バイオセット注500 499国際単位(溶解液付)																
13	コージネイトFS/バイオセット注1000 999国際単位溶解液付																
14	コージネイトFS/バイオセット注2000 1999国際単位溶解液付																
15	アドベイト静注用250 249単位(溶解液付)																
16	アドベイト静注用500 499単位(溶解液付)																
17	アドベイト静注用1000 1,001単位(溶解液付)																
18	アドベイト静注用2000 2,001単位(溶解液付)																
19	アドベイト静注用1500 1,499単位(溶解液付)																
20	コンファクトF注射用250 249単位(溶解液付)																
21	コンファクトF注射用500 499単位(溶解液付)																
22	コンファクトF注射用1000 1,001単位(溶解液付)																
23	ノボエイト静注用250 249国際単位(溶解液付)																
24	ノボエイト静注用500 499国際単位(溶解液付)																
25	ノボエイト静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)																
26	ノボエイト静注用1500 1,499国際単位(溶解液付)																
27	ノボエイト静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)																
28	ノボエイト静注用3000 3,001国際単位(溶解液付)																

薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2012年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	先天性無フィブリノゲン血症	低トロンビン血症	フィブリノゲン異常症	フィブリノゲン減少症	プロテインC欠乏症	プロテインS欠乏症	後天性血友病A	後天性血友病B	第VIII因子インヒビター陽性先天性血友病	第IX因子インヒビター陽性先天性血友病	新生児低プロトロンビン血症	アンチトロンピン欠乏症	後天性第XIII因子欠乏症	先天性第XIII因子欠乏症	先天性第VII因子欠乏症
		8836376	8837880	8839602	8839603	8841336	8841337	8845658	8845659	8845702	8845703	8845955	8847158	8847752	8847783	8847221
29	クロスエイトMC静注用250単位 (溶解液付)															
30	クロスエイトMC静注用500単位 (溶解液付)															
31	クロスエイトMC静注用1000単位 1,001単位(溶解液付)															
32	クロスエイトMC静注用2000単位 2,001単位(溶解液付)															
33	イロクテイト静注用250 249国際単位(溶解液付)															
34	イロクテイト静注用500 499国際単位(溶解液付)															
35	イロクテイト静注用750 749国際単位(溶解液付)															
36	イロクテイト静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)															
37	イロクテイト静注用1500 1,499国際単位(溶解液付)															
38	イロクテイト静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)															
39	イロクテイト静注用3000 3,001国際単位(溶解液付)															
40	クリスマシンM静注用399単位 (溶解液付)															
41	クリスマシンM静注用1000単位 1,001単位(溶解液付)															
42	ノバクトM静注用400単位 (溶解液付)															
43	ノバクトM静注用800単位 (溶解液付)															
44	ノバクトM静注用1600単位 1,599単位(溶解液付)															
45	ノバクトM静注用499単位 (溶解液付)															
46	ノバクトM静注用1000単位 1,001単位(溶解液付)															
47	ノバクトM静注用2000単位 2,001単位(溶解液付)															
48	ペネフィクス静注用500 499国際単位(溶解液付)															
49	ペネフィクス静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)															
50	ペネフィクス静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)															
51	ペネフィクス静注用3000 3,001国際単位(溶解液付)															
52	オルプロロクス静注用500 499国際単位(溶解液付)															
53	オルプロロクス静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)															
54	オルプロロクス静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)															
55	オルプロロクス静注用3000 3,001国際単位(溶解液付)															
56	オルプロロクス静注用250 249国際単位(溶解液付)															
57	PPSB-HT静注用200単位「ニテヤク」(溶解液付)															
58	PPSB-HT静注用500単位「ニテヤク」(溶解液付)															

薬名 番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2012年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	先天性無フィ ブリノゲン血症	低トロンビン血 症	フィブリノゲン異 常症	フィブリノゲン減 少症	プロテインC欠 乏症	プロテインS欠 乏症	後天性血友病A	後天性血友病B	第Ⅴ因子インヒビター陽 性先天性血友病	第Ⅷ因子インヒビター陽性 先天性血友病	新生児低プロ トロンビン血症	アンチトロンピン 欠乏症	後天性第Ⅹ因子 欠乏症	先天性第Ⅹ因子 欠乏症	先天性第Ⅺ因子 欠乏症
		8836376	8837680	8839602	8839603	8841336	8841337	8845656	8845659	8846702	8845703	8845955	8847156	8847752	8847763	8847221
59	アディノベイト静注用500 499国際単位(溶解液付)															
	アディノベイト静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)															
	アディノベイト静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)															
60	コバルトリー静注用250 249国際単位(溶解液付)															
	コバルトリー静注用500 499国際単位(溶解液付)															
	コバルトリー静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)															
	コバルトリー静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)															
	コバルトリー静注用3000 3,001国際単位(溶解液付)															
61	イデルピオン静注用250 249国際単位(溶解液付)															
	イデルピオン静注用500 499国際単位(溶解液付)															
	イデルピオン静注用1000 1,001国際単位(溶解液付)															
	イデルピオン静注用2000 2,001国際単位(溶解液付)															
62	新鮮凍結血漿-LR日赤120 血液199mL相当に由来する血漿															
	新鮮凍結血漿-LR日赤240 血液399mL相当に由来する血漿															
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」480 479mL															
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」 血液200mL相当に由来する血漿															
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」 血液400mL相当に由来する血漿															
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」成分採血 449mL															
	新鮮凍結血漿「日赤」 160mL															
	新鮮凍結血漿「日赤」 450mL															
	新鮮凍結血漿「日赤」 80mL															
63	デスマブレシン注4協和 3μg															
	デスマブレシン点鼻液0.01%協和 249μg															
	デスマブレシン点鼻スプレー0.01%「LS」 499μg															
	デスマブレシン・スプレー2.5協和 124μg															
	デスマブレシン・スプレー10協和 499μg															
64	フィブロガミンP静注用 正常人血漿1mL中含有量239倍溶解液付															
65	ノボサートン静注用2500 2,499国際単位(溶解液付)															
66	フィブリノゲンHT静注用0g「ベネシス」(溶解液付)															
67	フィブリノゲンHT静注用0g「JB」(溶解液付)															
	乾燥人フィブリノゲン 0g(溶解液付)															

薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2012年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	先天性無フィ	低トロンビン血	フィブリノゲン異	フィブリノゲン減	プロテインC欠	プロテインS欠	後天性血友病A	後天性血友病B	第Ⅴ因子インヒビター陽性	第Ⅷ因子インヒビター陽性	新生児低プロ	アンチトロンビン	後天性ⅩⅢ因子欠乏症	先天性ⅩⅢ因子欠乏症	先天性ⅩⅣ因子欠乏症
		リノゲン血症	症	常症	少症	乏症	乏症			先天性血友病	先天性血友病	ロンビン血症	欠乏症			
		8836376	8837880	8839602	8839603	8841336	8841337	8845658	8845659	8845702	8845703	8845955	8847158	8847752	8847783	8847221
68	アコアラン静注用600 599国際単位(溶解液付)															
	アコアラン静注用1800 1,799国際単位(溶解液付)															
69	注射用アナクトC2.499単位(溶解液付)															
72	アンスロビンP1500注射用 1,499単位(溶解液付)															
73	アンスロビンP500注射用 499単位(溶解液付)															
74	ノイアート静注用1500単位 1,499単位(溶解液付)															
75	ノイアート静注用499単位(溶解液付)															
76	ノボサーティーン静注用2500 2,499国際単位(溶解液付)															
80	献血ノンスロン1500注射用 1,499単位(溶解液付)															
81	献血ノンスロン500注射用 499単位(溶解液付)															
82	トランサミン散49%															
83	トランサミン錠250mg															
84	トランサミン錠500mg															
	トランサミンカプセル249mg															
	トランサミンシロップ4%															
	トランサミン注5% 4mL															
	トランサミン注10% 2.4mL															
	トランサミン注10% 9mL															
85	カチーフN散10mg/g 0%															
	カチーフN錠5mg															
	カチーフN錠10mg															
	ケーワンカプセル10mg															
	ケーワンカプセル20mg															
	ケーワン錠4mg															
	ケイツーカプセル4mg															
	ケイツーシロップ0.1%															
	ケイツーN静注9mg															
	ビタミンK1錠4mg「ツルハラ」															
	ビタミンK1錠5 4mg															
	ビタミンK1注10mg															
	ビタミンK1注30mg															
	ビタミンK1注50mg															

調査票（備考）

薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2013年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	血液製剤の備考	血液製剤の備考	血友病以外の傷病への使用(適応外処方を含む。) がある場合はその傷病名を記載ください。
1	ファイバ静注用500 500単位10mL(溶解液付)	021304901		
2	ファイバ静注用1000 1,000単位20mL(溶解液付)	021304901		
3	ノボセプンHI静注用1mg 1mL(溶解液付)	021029201		
4	ノボセプンHI静注用2mg 2mL(溶解液付)	021029201		
5	ノボセプンHI静注用5mg 5mL(溶解液付)	021029401		
6	ノボセプンHI静注用1mg シリンジ 1mL(溶解液付)	022366301		
7	ノボセプンHI静注用2mg シリンジ 2mL(溶解液付)	022366401		
8	ノボセプンHI静注用5mg シリンジ 5mL(溶解液付)	022366501		
9	ノボセプンHI静注用8mg シリンジ 8mL(溶解液付)	022366601		
10	バイクロット配合注 第7a因子1.5mg第X因子15mg溶解液付	022367201		
11	コージネイトFS/バイオセット注250 250国際単位(溶解液付)	020002211		
12	コージネイトFS/バイオセット注500 500国際単位(溶解液付)	020002212		
13	コージネイトFS/バイオセット注1000 1000国際単位溶解液付	020002213		
14	コージネイトFS/バイオセット注2000 2000国際単位溶解液付	021000001		
15	アドベイト静注用250 250単位(溶解液付)	021769701		
16	アドベイト静注用500 500単位(溶解液付)	021769801		
17	アドベイト静注用1000 1,000単位(溶解液付)	021769901		
18	アドベイト静注用2000 2,000単位(溶解液付)	021864102		
19	アドベイト静注用1500 1,500単位(溶解液付)	022440101		
20	コンファクトF注射用250 250単位(溶解液付)	021152004		
21	コンファクトF注射用500 500単位(溶解液付)	021152004		
22	コンファクトF注射用1000 1,000単位(溶解液付)	021154003		
23	ノボエイト静注用250 250国際単位(溶解液付)	022332001		
24	ノボエイト静注用500 500国際単位(溶解液付)	022332101		
25	ノボエイト静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	022332201		
26	ノボエイト静注用1500 1,500国際単位(溶解液付)	022332301		
27	ノボエイト静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	022332401		
28	ノボエイト静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)	022332501		
29	クロスエイトMC静注用250単位(溶解液付)	021152003		
30	クロスエイトMC静注用500単位(溶解液付)	021152002		

第Ⅳ因子欠乏の所見を見て「後天性」という診断がつく前にあえず第Ⅳ因子製剤が使用されるケースが散見される(特に後天性血友病Aに関連し)

稀ではあるがTⅡやプロテインC欠乏症や新生児低PT血症などで使われる可能性がある(特に第Ⅳ因子、第Ⅴ因子インヒター陽性先天性血友病に関連し)

薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2013年までに使われなくなった薬剤は対象外です)		血液製剤の備考	血液製剤の備考	血友病以外の病態への使用(適応外処方を含む。)がある場合はその病名を記載ください。						
31	クロスエイトMC静注用1000単位 1,000単位(溶解液付)	021154009	第Ⅷ因子欠乏の所見を見て「後天性」という診断がつく前にとりあえず第Ⅷ因子製剤が使用されるケースが尠見される(特に後天性血友病Aに関連し)								
32	クロスエイトMC静注用2000単位 2,000単位(溶解液付)	021454901									
33	イロクテイト静注用250 250国際単位(溶解液付)	021402901									
34	イロクテイト静注用500 500国際単位(溶解液付)	021402901									
35	イロクテイト静注用750 750国際単位(溶解液付)	021403001									
36	イロクテイト静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	021403101									
37	イロクテイト静注用1500 1,500国際単位(溶解液付)	021403201									
38	イロクテイト静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	021403301									
39	イロクテイト静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)	021403401									
40	クリスマシンM静注用400単位 (溶解液付)	020000203				稀ではあるがⅧIやプロテインC欠乏症や新生児低PT血症などで使われる可能性がある(特に第Ⅷ因子、第Ⅸ因子インヒビター陽性先天性血友病に関連し)					
41	クリスマシンM静注用1000単位 1,000単位(溶解液付)	020000204									
42	ノバクトM静注用400単位 (溶解液付)	022024001									
43	ノバクトM静注用800単位 (溶解液付)	022024101									
44	ノバクトM静注用1600単位 1,600単位(溶解液付)	022024201									
45	ノバクトM静注用500単位 (溶解液付)	021406201									
46	ノバクトM静注用1000単位 1,000単位(溶解液付)	021406301									
47	ノバクトM静注用2000単位 2,000単位(溶解液付)	021406401									
48	ベネフィクス静注用500 500国際単位(溶解液付)	021971601									
49	ベネフィクス静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	021971701									
50	ベネフィクス静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	021971801									
51	ベネフィクス静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)	022173901									
52	オルプロリクス静注用500 500国際単位(溶解液付)	022364101									
53	オルプロリクス静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	022364201									
54	オルプロリクス静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	022364301									
55	オルプロリクス静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)	022364401									
56	オルプロリクス静注用250 250国際単位(溶解液付)	021429501									
57	PPSB-HT静注用200単位「ニテヤク」(溶解液付)	021154501							稀ではあるがⅧIやプロテインC欠乏症や新生児低PT血症などで使われる可能性がある(特に第Ⅷ因子、第Ⅸ因子インヒビター陽性先天性血友病に関連し)		
58	PPSB-HT静注用500単位「ニテヤク」(溶解液付)	021154501									

薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2013年までに使われなくなった薬剤は対象外です)	血液製剤の備考	血液製剤の備考	血友病以外の薬病への使用(適応外処方を含む。) がある場合はその薬病名を記載ください。
09	アディノベイト静注用500 500国際単位(溶解液付)	022468001	第Ⅷ因子欠乏の所見を見て「後天性」という診断がつく前にとりあえず第Ⅷ因子製剤が使用されるケースが散見される(特に後天性血友病に関連し)	稀ではあるがⅢⅦやプロテインC欠乏症や新生児低PT血症などで使われる可能性がある(特に第Ⅷ因子、第Ⅸ因子インヒビター陽性先天性血友病に関連し)
	アディノベイト静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	022468101		
	アディノベイト静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	022468201		
00	コバルトトリ静注用250 250国際単位(溶解液付)	022469301	第Ⅷ因子欠乏の所見を見て「後天性」という診断がつく前にとりあえず第Ⅷ因子製剤が使用されるケースが散見される(特に後天性血友病に関連し)	稀ではあるがⅢⅦやプロテインC欠乏症や新生児低PT血症などで使われる可能性がある(特に第Ⅷ因子、第Ⅸ因子インヒビター陽性先天性血友病に関連し)
	コバルトトリ静注用500 500国際単位(溶解液付)	022469401		
	コバルトトリ静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	022469501		
	コバルトトリ静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	022469601		
	コバルトトリ静注用3000 3,000国際単位(溶解液付)	022469701		
01	イデルピオン静注用250 250国際単位(溶解液付)	022526101		稀ではあるがⅢⅦやプロテインC欠乏症や新生児低PT血症などで使われる可能性がある(特に第Ⅷ因子、第Ⅸ因子インヒビター陽性先天性血友病に関連し)
	イデルピオン静注用500 500国際単位(溶解液付)	022526201		
	イデルピオン静注用1000 1,000国際単位(溶解液付)	022526301		
	イデルピオン静注用2000 2,000国際単位(溶解液付)	022526401		
02	新鮮凍結血漿—LR日赤120 血液200mL相当に由来する血漿	021172001		稀ではあるがⅢⅦやプロテインC欠乏症や新生児低PT血症などで使われる可能性がある(特に第Ⅷ因子、第Ⅸ因子インヒビター陽性先天性血友病に関連し)
	新鮮凍結血漿—LR日赤240 血液400mL相当に由来する血漿	021172701		ⅧC、ⅧFⅡ/Ⅱa/Ⅱb/Ⅱc/Ⅱd/Ⅱe/Ⅱf/Ⅱg/Ⅱh/Ⅱi/Ⅱj/Ⅱk/Ⅱl/Ⅱm/Ⅱn/Ⅱo/Ⅱp/Ⅱq/Ⅱr/Ⅱs/Ⅱt/Ⅱu/Ⅱv/Ⅱw/Ⅱx/Ⅱy/Ⅱz
	新鮮凍結血漿—LR「日赤」480 480mL	022192101		
	新鮮凍結血漿—LR「日赤」血液200mL相当に由来する血漿	020004681 廃止日		
	新鮮凍結血漿—LR「日赤」血液400mL相当に由来する血漿	020004682 廃止日		
	新鮮凍結血漿—LR「日赤」成分採血 450mL	021610701 廃止日		
	新鮮凍結血漿「日赤」 180mL	040400044 廃止日		
	新鮮凍結血漿「日赤」 450mL	040400043 廃止日		
	新鮮凍結血漿「日赤」 80mL	040400040 廃止日		
03	デスマブレシ注4協和 4μg	042410070		中核性眼疾患、夜尿症
	デスマブレシ点鼻液0.01%協和 250μg	020515101		
	デスマブレシ点鼻スプレー0.01%「ILS」 500μg	022450001		
	デスマブレシ・スプレー2.5協和 125μg	080433041		
	デスマブレシ・スプレー10協和 500μg	080470004		
04	フィブロガミンP静注用 正常人血漿1mL中含有量240倍溶解液付	020009198		
05	ノボサートーン静注用2500 2,500国際単位(溶解液付)	022424901		
06	フィブリノゲンHT静注用1g「ベネシス」(溶解液付)	02000274		
07	フィブリノゲンHT静注用1g「JB」(溶解液付)	021157504		
	乾燥人フィブリノゲン 1g(溶解液付)	040340028		



薬剤番号	2013年～2015年に使われた薬剤 (2013年までに使われなくなった薬剤は対象外です)		血液製剤の備考	血液製剤の備考	血液製剤以外の薬病への使用(適応が処方を含む。)がある場合はその薬病名を記載ください。
68	アコアラシ静注用600 600国際単位(溶解液付)	612442001			
	アコアラシ静注用1800 1,800国際単位(溶解液付)	622563901			
69	注射用アナクトC2, 500単位 (溶解液付)	640443038			
72	アンズロビンP1500注射用 1,500単位(溶解液付)	620003432			
73	アンズロビンP500注射用 500単位(溶解液付)	621150208			
74	ノイアート静注用1500単位 1,500単位(溶解液付)	620003071			
75	ノイアート静注用500単位 (溶解液付)	621150207			
76	ノボサーティーン静注用2500 2,500国際単位(溶解液付)	612444901			
80	献血ノンスロン1500注射用 1,500単位(溶解液付)	620001351			
81	献血ノンスロン500注射用 500単位(溶解液付)	620001350			
82	トランサミン散50%	610463119			
83	トランサミン錠250mg	610463120			
84	トランサミン錠500mg	613320130			
	トランサミンカプセル250mg	620007030			
	トランサミンシロップ5%	620007031			
	トランサミン注5% 5mL	640463094			
	トランサミン注10% 2.5mL	640463095			
	トランサミン注10% 10mL	640463096			
85	カチーフN散10mg/g 1%	610463090			
	カチーフN錠5mg	620005335			
	カチーフN錠10mg	620005336			
	ケーワンカプセル10mg	613150026			
	ケーワンカプセル20mg	613150027			
	ケーワン錠5mg	620004982			
	ケイツーカプセル5mg	613150126			
	ケイツーシロップ0.2%	620004496			
	ケイツーN静注10mg	620717601			
	ビタミンK1錠5mg「ツルハラ」	620715001			
	ビタミンK1錠5 5mg	613150038			
	ビタミンK1注10mg	620003782			
	ビタミンK1注30mg	620003783			
	ビタミンK1注50mg	620003784			

<図表5>H I V薬剤

種類	品名	規格・単位	薬価	薬効分類	経過措置日又は使用期限	麻毒	収載方式	施行日	請求コード
逆転写酵素阻害薬	レトロビルカプセル100mg	カプセル	284.40円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620005140
	ヴァイデックスECカプセル125 125mg	カプセル	1,034.70円	625			官報告示等	平成28年4月1日	610443081
	ヴァイデックスECカプセル200 200mg	カプセル	1,561.00円	625			官報告示等	平成28年4月1日	610443082
	エビビル錠150 150mg	錠	840.70円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620000425
	エビビル錠300 300mg	錠	1,649.10円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620000426
	ゼリットカプセル15 15mg	カプセル	409.80円	625			官報告示等	平成28年4月1日	610412192
	ゼリットカプセル20 20mg	カプセル	417.60円	625			官報告示等	平成28年4月1日	610412193
	コンビビル配合錠	錠	1,615.60円	625			官報告示等	平成28年4月1日	621144201
	エブジコム配合錠	錠	3,981.10円	625			官報告示等	平成28年4月1日	621657001
	ザイアジェン錠300mg	錠	863.00円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620004998
	ピリアード錠300mg	錠	2,044.80円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620001903
	ツルパダ配合錠	錠	3,863.60円	625			官報告示等	平成28年4月1日	621662301
	エムトリバカプセル200mg	カプセル	1,664.30円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620002488
	デシコビ配合錠HT	錠	3,934.30円	625			官報告示等	平成28年12月21日	622522501
	デシコビ配合錠LT	錠	2,748.20円	625			官報告示等	平成28年12月21日	622522601
	ピラミューン錠200 200mg	錠	833.30円	625			官報告示等	平成28年4月1日	610421341
	ストックリン錠600mg	錠	1,611.90円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620006943
	ストックリン錠200mg	錠	563.30円	625			官報告示等	平成28年4月1日	621932401
	インテレンス錠100mg	錠	636.40円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620009086
	エジュラント錠25mg	錠	2,108.70円	625			官報告示等	平成28年4月1日	622149101
コムプレラ配合錠	錠	5,817.80円	625			官報告示等	平成28年4月1日	622388001	
プロテアーゼ阻害薬	クリキシバンカプセル200mg	カプセル	103.30円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620004975
	インビラーゼカプセル200mg	カプセル	130.10円	625	平成30年3月31日		官報告示等	平成29年3月17日	620003516
	インビラーゼ錠500mg	錠	362.90円	625	平成30年3月31日		官報告示等	平成29年3月17日	620004347
	ノービア内用液8% 80mg	mL	107.70円	625			官報告示等	平成28年4月1日	621143601
	ノービア錠100mg	錠	106.30円	625			官報告示等	平成28年4月1日	622054801
	カレトラ配合内用液	mL	147.40円	625			官報告示等	平成28年4月1日	621384201
	カレトラ配合錠	錠	330.70円	625			官報告示等	平成28年4月1日	621765701
	ピラセプト錠250mg	錠	139.80円	625			官報告示等	平成28年4月1日	621143701
	レイアタツカプセル150mg	カプセル	568.00円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620000454
	レイアタツカプセル200mg	カプセル	765.70円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620000455
	レクシヴァ錠700 700mg	錠	796.50円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620002465
	ブリジスタナイーブ錠800mg	錠	1,896.50円	625			官報告示等	平成28年4月1日	622276701
	ブリジスタ錠600mg	錠	885.00円	625			官報告示等	平成28年4月1日	622403501
	ブレジコビックス配合錠	錠	2,002.80円	625			官報告示等	平成28年12月7日	622532301
インテグラーゼ阻害薬	アイセントレス錠400mg	錠	1,553.60円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620007815
	スタリビルド配合錠	錠	6,942.10円	625			官報告示等	平成28年4月1日	622235801
	デビケイ錠50mg	錠	3,262.60円	625			官報告示等	平成28年4月1日	622336201
	トリーメク配合錠	錠	7,000.30円	625			官報告示等	平成28年4月1日	622408801
	ゲンボイヤ配合錠	錠	6,942.10円	625			官報告示等	平成28年6月29日	622507701
侵入阻害薬	シーエルセントリ錠150mg	錠	2,343.90円	625			官報告示等	平成28年4月1日	620009087